

交流協会 学生交流事業

交流協会では、日本と台湾との若者世代の交流促進のため様々な招聘・派遣事業を実施しています。平成23年12月8日から12月17日まで台湾で東アジア地域の国際政治・国際法・国際経済・安全保障に関する研究を行っている台湾人大学院生20名を現代日本社会や文化に対する理解を一層深めるために東京都・群馬県・愛知県・京都府に招聘しました。

東京では日華議員懇談会や防衛省研究所等の公的機関を訪問しての意見交換、群馬県では日本人家庭でのホームステイや温泉体験、名古屋大学及び立命館大学では各自の研究論文を発表し討論する学術交流会を行い、文化体験では座禅、着物の着付け等を体験し短期間の日程ながらも多くのプログラムを通じ学術や文化・習慣に触れることが出来たようです。

今回招聘した20名のうち、男性2名女性4名の訪日報告書を2回に分けてご紹介致します。

平成23年度台湾大学院生訪日団 感想

台湾大学 政治研究所
劉庭豪



交流協会の台湾大学院生訪日団のメンバーになることができたことをとても嬉しく思います。年の瀬に日本を訪れることができ、大変光栄です。今回の交流では多くの収穫や心に感じたことがあり、皆に伝えたい感想もあります。以下では日程順に述べたいと思います。

時空を超えて江戸時代へ—江戸東京博物館

私はずっと歴史に興味を持っており、中国の歴史であれ、外国の歴史であれ、知りたいという好奇心を持っています。今回、江戸東京博物館を見学することができ、とても興奮しました。博物館は江戸時代の歴史及び文化に関する資料を保存し、展示しています。その中でも最も印象深かったのは、江戸時代の火を起こす道具です。以前、日本のテレビドラマ「JIN—仁—」を見たときに、

ドラマの中で火を起こす道具が出てきましたが、博物館に展示されていたものと全く同じでした。その展示を目にしたときは、思わず足を止めて、火を起こす道具の紹介を読みました。博物館の見学で少し残念だったのは、館内の展示品はとても豊富であるにもかかわらず、時間が短すぎてあまり多くの展示品を見ることができなかったことです。もし今後また東京に来る機会があれば、時間をかけて館内をじっくり見学してみたいと思います。

がんばれ台日交流—日華議員懇談会

日本に来て日本の議員と対談を行うことができたのは非常に得難い機会でした。特に対談の相手が我が国に友好的な議員だったので、とりわけ親しみを感じました。実のところ、日本へ来る前まで、日華議員懇談会という組織のことは知りませんでした。今回の日程のお蔭で、台日間にこのような友好的な団体が存在していることを知ることができました。台日双方には正式な外交関係は存在しませんが、両国の間の政治経済関係は密接であり、お互いの国民の行き来も頻繁です。政府間の正式な関係は存在していないものの、事実上の

付き合いは消し去ることはできません。日華議員懇談会の議員は中国本土の将来の発展に対して疑問を抱いていることが分かりました。日本と同じように、多くの台湾人も兩岸関係の発展に非常に注目しています。なぜなら、兩岸関係は台湾の発展と将来の行方に係わることだからです。中国本土の総合的な国力が次第に強まるにつれて、中国本土とどのように付き合っていくかは台日双方が共に直面する課題となっています。

非常に心温まる群馬での滞在—ホームステイ

ホームステイの体験は今回の訪日旅行で最も印象に残り、最も忘れがたい時間となりました。今でもホストファミリーのもてなしに感謝し、彼らに会いたいと強く思います。日本に来る前に最も心配していたのはホームステイの日程でした。自分の日本語能力ではホストファミリーと意思疎通できないのではないかと、両国の文化の違いによってお互いの間にわだかまりや誤解が生じるのではないかと心配していました。ところが、これらの心配はすべて余計なものでした。T 夫妻はとても親切で、可愛らしく、夕飯の時は、お母さんが手作りの料理をたくさん用意してくれ、食べると感動と感謝の気持ちで一杯になりました。T 家のお母さんの料理の腕は本当に素晴らしく、他の訪日団のメンバーに私のホームステイ先の豪華な夕食の写真を見せびらかしました。言葉の壁はありましたが、私達の話は、台湾人の東日本大震災への募金、日本のテレビドラマ「南極大陸」「家政婦のミタ」及び日本のアニメ「ワンピース」など多岐にわたりました。T 夫妻は自分たちが台湾に行った時の経験を私達に話してくれました。

その日の夜はちょうど皆既月食だったので、寒い中、T 家のお母さん、娘さんと一緒に夜空の月を見ました。このときの感動はいつまでも胸の中に残り続けました。これまで台湾で日本のドラマやアニメを見て、日本の家の造りや内装を見てい



ホストファミリーと別れる直前に撮った写真。笑って写っているけれど、次回いつ会うことができるのかわからないので、少し辛かったです。

ましたが、今回、日本の家庭にホームステイする機会ができ、遂に夢を叶えることができました。特にホットカーペットや日本の伝統的な炬燵を見たときは、テレビで見た場面がそのまま目の前に現れたかのようでした。とても寒い天気でしたが、T 家のもてなしがとても温かく感じました。

平和という究極の真理に向かって—国際平和ミュージアム

今回の訪問日程の中で、最も有意義だと感じたのは国際平和ミュージアムです。国際平和ミュージアムを見学し、回顧するに堪えない戦争の悲惨な記憶を目にしました。軍国主義の歴史的一幕や1発の弾丸が人々の平穏な生活を壊したことなど、歴史の断片が国際平和ミュージアムに忠実に再現されていました。どの展示も驚くべき内容で、心の琴線に触れました。戦争の残忍さは経験したことはありませんが、とても深く印象に残りました。これは人々に歴史を忘れてはならないことを伝える博物館であり、将来は平和の道を歩まなければならないことを伝える博物館です。国際平和ミュージアムの中には、第二次世界大戦の歴史に関して、各国の教科書を展示しているコーナーがありました。その中には台湾の教科書も含まれており、多角的な歴史観により第二次世界大

戦発生の原因を示し、多角的な精神を示しています。もし現在の国際情勢も異なる国家の声を受け入れながら学び、異なるものを受け入れることができれば、国際平和ミュージアムの刊行物に記載されていた「見て、感じて、考えて、平和を目指す」を真に実現することができると思います。国際平和ミュージアムは世界中のすべての人にとって見学するのに適した博物館であり、見学後は戦争の残酷さと平和の尊さを感じることができると思います。

学術交流の尊さ—立命館大学

今回の訪日団の活動の山場がついにやって来ました。海外でレポートを発表するのは非常に得難い経験であり、外国人学生と自分の学術上の成果を討論するのは貴重な経験です。私のレポートのテーマは「中国の軍事の現代化、日本の東アジアにおける戦略配置への影響」です。パワーポイントでの発表を終えると、このテーマは日本がここ数年または将来直面する課題なので、多くの日本人学生が私に質問しました。レポートの価値というのは、皆の討論の対象となったり、重要視されたりするにかかっているのです。立命館大学の学生が私のレポートに対して興味を示してくれたことは、とても嬉しかったです。また、東京から新幹線に乗って遠路はるばる京都へ私達の発表を聞きに来てくださったI先生にはとても感謝致します。I先生は各発表者に対して役立つ意見をたくさん与えてくださっただけでなく、それぞれの発表を注意深く聞いていました。このような先輩の姿から、私は日本人の勤勉な精神を目にし、とても敬服しました。

日本文化初体験—両足院での座禅体験、和服を着ての清水寺散策

建仁寺両足院での座禅と和服を着ての清水寺散策はとても新鮮な経験でした。今回の訪日団の活

動でこれらを体験することができ、本当に嬉しく思います。寒い天気の日に座禅を行いました。日頃台北で生活しているときは、片時も落ち着く暇がありませんが、俗世間から離れて、座禅を組むことに専念するという座禅に日本で挑戦することができ、とても気持ち良く感じました。台湾に戻った後も、師匠が教えてくださった座禅の組み方を思い出しながら、自分でも心身をリラックスさせる方法を身に付けたいと思います。

座禅の後、有名な清水寺を訪れました。台湾にいた頃から、その独特な建築工法や決意を示すために清水の舞台から飛び降りることなど、清水寺のことは聞いたことがありました。実際にこの目で清水寺を見て、和服も体験することができたことは、2つの夢を同時に叶えることができたとても貴重な経験でした。

今回の訪日団の活動を円満に終えることがで



き、交流協会の担当者の方々、引率して下さった団長のK先生、Aさん、Nさん、通訳のT₁さん、群馬県観光国際協会のS部長、ガイドさん、メンバー全員、及び日本で私達を助け、協力して下さったすべての方々に感謝致します。みなさんのお蔭で、今回の旅行が素晴らしいものになりました。訪日団の活動の中には、居酒屋、座禅、和服、ホームステイなど、初めて体験することがたくさんありました。どれもとても目新しく、ずっと日本にいたいと思いました。日本語の能力をもう少し強化しなければならないのはもちろんですが、私は笑顔こそが最も良い言葉であると信じています。真心がこもった笑顔は互いの距離を縮めてくれます。今回の交流が台日民間関係をより緊密、密接にし、二国間関係がより深く発展することを願っています。

私は今年4月の日本行きチケットをすでに予約しました。再び日本に行けることを楽しみにしています。

台湾大学院生訪日団 訪日感想

台湾大学 政治研究所
李雅築



多くの台湾人にとって日本は隣に住んでいる隣人のようであり、生活の中にも多過ぎるほどの共通点や交わりがあり、既に良く知っている国のようです。しかし、まだ日本を訪れたことが無いのであれば、このような言い方は早過ぎるかもしれません。私は今回の旅行で多くの「初体験」を経験しました。日本の精神と文化の魅力を再認識しただけでなく、台湾と日本が密接に結びついている原因を改めて考え、そして最も重要なこととして、両国の交流における自己の役割を改めて見つめ直しました。

最も印象深かったもの：日本の生活体験@群馬県

ホストファミリーは、お母さん、お姉さん、弟の3人からなる小さな家庭でした。お母さんは中国の成語や唐詩を暗誦することが好きで、私達と一緒に日本語版の唐詩を沢山朗読し、とても面白かったです。お姉さんは台湾のアイドルグループ「飛輪海（フェイルンハイ）」のCDを沢山集めていて、台湾のソフトパワーの力を見ただけではなく、国際化のイメージがより豊か、かつ具体的になりました。弟は私達の日本語がうまくないことを知って、できるだけ話すスピードを遅くしたり、簡単な日本語を使ったりしてコミュニケーションを取ろうとしてくれました。身振り手振りを交えて話す彼の姿を見て、とても感動しました。彼は夜、リビングの炬燵に大人しく座って、手に持ったビーズと糸を慎重に操り、小さなペンギンの手芸品を完成させました。「これあげる」とそれを私たちにくれるなんて、その心遣いにとても驚きました。小さな手芸品ですが、無限の心遣いと温かさが込められていました。

送別会で、私と朱美兪は随行の通訳に私達の架け橋役をお願いすると、言いたかったことが心の中から無意識に湧いて出てきました。「美味しい食べ物を沢山作ってくれて、お母さん、ありがとう。とても仲睦まじくて心温まる家庭で、私も沢山の温もりをもらいました」「お姉さんは、お母さんの手伝いをよくするだけでなく、面白いことも沢山してくれて、本当に可愛かった」「弟は多芸多才の小さな天才です。カメラや手芸ができるだけでなく、手品などで私たちを楽しませてくれました」話し終わったとき、全員が思わず涙を流しました。



(図1) お姉さんと弟。弟が手に持っているのは手作りの手芸品



(図2) 送別会にて。左からお姉さん、お母さん、弟、私、朱美俞

このような国境と言葉を超えた交流は言葉で形容するのが難しいです。笑顔と強い心の繋がりにより、私たちは短い時間でも急速にお互いを理解し、親密になりました。何年何月に再会することができるか分かりませんが、機会があればまたこの可愛い小さな家庭を訪れ、日本の家庭生活のより多くの面を体験したいと思います。

最も頭を使ったもの：レポート発表と日本人学生との交流

レポート発表は今回の訪日研修の最も重要なイベントでしたが、正直なところ、私は自分の発表があまり良くできなかつたと思いました。後で団長の郭先生からメンバーの中では中レベル以上の発表だったとの評価を頂きましたが、やはりあまり自信が持てません。発表を終えた後は、ただもっと学術の中身と背景知識を充実させなければならぬと感じました。なぜなら私たちが接した日本の学生はほとんどが学びと遊びの能力を共に兼ね備えた大学院生で、流暢な英語と多様な視点から豊富な内容のレポート発表を行っていたからです。彼らの中には自己の見解を教授にぶつけて討論した学生や研究の枠組みや方法を自ら生み出した学生もいました。K先生は私達を励まして仰いました。「大学院生はこうでなければなりま

せん。学術の世界では、正しい意見や間違つた意見というものではなく、あなたの意見と私の意見があるだけです。だから教授と討論することを恐れてはいけません。」その他、人の言ったことを鵜呑みにして他人の方法を用いるのではなく、自分の研究方法を持ち、独自の方法を作り出すことを試してこそ、研究目的と趣旨に合致する、ということをおっしゃいました。

最も見る価値のあつたもの：江戸東京博物館及び立命館大学国際平和ミュージアム

江戸東京博物館は日本の江戸幕府時代の生活の様子を再現し、一連の音声ガイドが見学者をあたかも歴史の場面の中にいるかのような気分させてくれ、実際の人による解説は当時の日本社会の様子をより豊かに再現してくれます。

国際平和ミュージアムには日本の第二次世界大戦時における歴史的写真や文物が詳細に展示され、平和への願いを伝えるために、加害者と被害者の両面から戦争の真の姿を再現しています。このような心揺さぶる保存された文物に私はとても驚かされたと同時に、日本国憲法第9条が生まれた背景や歴史的経緯が徐々に見えてきました。国家にとって戦争は、国家の財産を無駄にし、多くの罪の無い人の命を傷付けるだけです。日本は第二次世界大戦の中から国家の存在意義を考え、日本の軍隊の組織改編を行いました。これはとても得難く尊い反省です。国際平和ミュージアムが伝えようとしている理念は、多くの団体の見学や見学者への解説を通じて、次第に多くの人が戦争の恐ろしさと脅威を理解し、人々の心の奥深くに平和の考えを根付かせ、より多くのまとまった声と認識を生み出しています。

最も興奮させられたもの：日華議員懇談会訪問

正直なところ、これまで日華議員懇談会の存在を知りませんでした。この組織は親台派の政治家たち共同の場を提供するだけでなく、台日関係に



(図3) 立命館大学「日台大学院生 学術発表会」



(図5) 浴衣を着て群馬県観光国際協会のSさんと記念撮影



(図4) 江戸東京博物館

政府の拠り所と後ろ盾を提供しています。日華懇の議員は台日間の相互交流に関心を持ち、両国間の懸け橋としての役割を演じ、真の外交関係がない両国において一定の理解と相互信頼を確立させています。日華懇の議員は、はばかりずに言いました。「中国は依然として日本にとって最大の脅威の一つであり、釣魚台（尖閣諸島）[G 1]の主権問題や最近発生した沖縄事件など、中国の強大な軍事力の矛先は日本に向けられている。台湾は特殊な地位において、いかに力を発揮し、運営していくことで重要な役割を演じることができるかは、台湾政府が考え、努力すべき点である」

最も忘れがたいもの：達磨への願い、金閣寺、和服で歩いた清水寺

達磨絵付けの先生は熟練した手つきで、それぞ

れの達磨に縁起の良い鶴や亀を描いていきました。すでに何度もやっている動作ですが、「これはお客さんが幸せを祈るために使うものだから、一つひとつ誠心誠意を込めて描いています」という先生の粘り強く専心する姿には感心させられました。また、和服を着て散策した清水寺は特別な体験でした。手足を伸ばしたり、思い切り息を吸ったりすることができない和服を着たことで動作が自ずと品のある女性のようになり、とても面白かったです。



(図6) 清水寺の前で。左から濬帆、芷羽、私、軍凱、庭豪、鼎伊

最も心に残ったもの：日本人の礼儀正しさと細やかな心遣い

ずっと心に残っているのは、ホテルの老女将の満面の笑顔、腰を曲げて注いでくださったお茶、腰を90度に曲げてのお辞儀やお礼です。「多くの温泉旅館の中から私どもの旅館を選んで頂き、ありがとうございます。心より感謝申し上げます」。たとえ多くの観光客を接客したことがあっても、彼らは毎回のサービスを最後の1度のサービスと

同じように考え、私たちが必要としていることや細かなことなども注意深く観察し、私たちよりも一歩早く準備してくださいました。このようなサービス精神と意志は日本を訪れた観光客全員を我が家に帰ったような気分させてくれるものです。

あとがき

日本では「台湾、ありがとう」という言葉をよく耳にしました。日本の大震災における募金や協力は台日両国の友情を際立たせ、民間にせよ政府にせよ、両国が既に良好な相互関係を築いたことを否定することはできません。

この9泊10日はゆっくり時間をかけて考える必要のある訪日研修でした。K先生がおっしゃったように、今回の訪日研修は「大成功」でした。私たちは酸いも甘いも経験し、そのような味わいは私の心に留めておくだけでなく、私の日本に対するあこがれや考えを外に伝え、自分が日台交流の種となり、台湾と日本の関係をより近づける民間の外交官になりたいと思います。

平成23年度台湾大学院生訪日団 感想レポート

淡江大学 アジア研究所日本研究組

陳怡君



最初に、今回の機会を与えてくださった交流協会に感謝致します。初めての海外での発表だったので、外国語と研究を引き続き強化しなければならないことを感じました。一方で、それぞれの研究分野は異なっているものの、台湾の他の学生の発表から沢山の日本の新しい顔を見ることができ、また日本の学生の発表からも異なる国の見方、

研究内容やその方向性の違いを発見することができました。

1. 東京

1日目、日本に着くと、まずお台場へ行き、意外にもクリスマスの特別なイベントを鑑賞することができました。初日の夜は、交流協会によるもてなしを受け、日本の居酒屋の雰囲気を経験しました。

東京日程の2日目は、まず日本憲政記念館を見学し、午後は日華議員懇談会及び防衛研究所の座談会に参加しました。日華議員懇談会において、みんなが最も関心を示していた問題は、日本が各種の貿易組織へ加入することの影響及び見方であり、特に最近のTPPの議論は日本国内で大きな論争を巻き起こしています。懇親会に出席した議員の大半は反対意見を持っていました。出席した議員はみな、TPP締結の国内産業に与える衝撃は甚大で、自由貿易だけを理由として締結するならば、経済全体への影響は避けられないため、慎重に行動しなければならない、と考えていました。

防衛省防衛研究所では、東アジア全体、東南アジアないしはロシアとの関係について、皆から質問や意見が出され、研究員は私達ととても細かく討論し、国際関係を研究する上でとても役に立ちました。

もう一つの座談会は研究開発戦略センターでした。研究員の講義を聞いて、多くの研究者が地震の被災地で震災後に便利簡単かつ被災地のニーズを満たすことができる製品を研究開発していることが分かりました。また日本の周辺地域における経済貿易についても説明があり、このテーマを研究している学生は次々と意見を述べました。私はこのテーマについて研究していませんが、みんなの熱意を感じるすることができました。

2. 群馬

日程の中でホームステイの活動は、私にとってとても新鮮かつ特別なものでした。24時間に満たない短いものでしたが、皆と別れるときや自分のホストファミリーと別れるときの様子から、皆がホストファミリーとの間に深い感情を育んだことが見て取れました。

私のホストファミリーはYさんの家庭で、3人の3歳以下の子供を含む家族8人の大家族でした。ホストファミリーのお婿さんであるGさんは、私達を高崎白衣大観音に連れて行ってくれました。白衣大観音の展望台からは東京まで見渡すことができ、眺めは非常に壮観です。Gさんの長男・睦久くん、次男の拓久くんも一緒に同行し、私達はすぐに仲良くなりました。ホストファミリーは特別なところへ連れて行ってくれたわけはありませんが、彼らが普段買い物に行く場所、食事を食べる場所に一緒に行くだけでもとても面白かったです。夜はお母さんのYさんと娘のめぐみさんと一緒にお喋りし、2人は台湾に是非一度行ってみたいと話しました。各国の学生を受け入れたときの面白かった出来事などの話を聞くことができ、とても有意義な夜を過ごしました。

群馬では富岡製糸場見学、達磨絵付け体験、榛名湖イルミネーション見学をし、最後は伊香保温泉旅館に宿泊しました。

富岡製糸場の歴史的価値は、日本の工業化時代の始まりを象徴していることにあります。十分な見学時間がなく、内部の建築物まで見学することはできませんでしたが、当時のシステム化された織布機械を見たり、当時の逸話をガイドから聞いたりし、このような産業が現地に発展をもたらしたのには、とても長期にわたる営業と推進があったのだと思いました。

達磨絵付けはとても面白い体験でした。社長がお手本を示し、みんなは自分の達磨を描くのに集中しました。達磨の機能は幸運を祈願するものであるから、一つひとつの達磨は誠意をこめて描かなければならないという社長の言葉からは職人の気概が感じられました。

今回、榛名湖イルミネーションの時期に訪れることができ、非常に幸運でした。とても寒い天気でしたが、このような珍しい景色を見ることができ、とても嬉しく思います。この場所の昼間の景色も夜の景色とは違った良さがあるのだろうと思いました。

夜宿泊したのは「轟」という温泉旅館で、歴史の古さが感じられました。女主人と他のスタッフのサービスが非常に忘れがたい夕食にさせてくれました。他の温泉地と比べ、伊香保温泉は台湾ではあまり注目されていません。私は伊香保温泉もとても特色のある温泉だと思いました。温泉好き





の友人に是非紹介したいと思います。夜は群馬県観光国際協会のS部長が温泉街を案内してくれました。夜はすでに店が閉まっていたましたが、有名な石段を旅館から一番上の伊香保神社まで上りました。石段はどこか懐かしい感じがあり、次回もし機会があれば、昼間にこの場所を訪れたいと思います。

3. 名古屋

名古屋での滞在時間はそれほど長くありませんでした。私は名古屋大学で発表することになっていたので、朝の日程もずっと緊張していました。発表のときは大きな間違いはなかったものの、言葉の問題があり完璧に発表することができず、今後もう少し努力しなければならないと思いました。発表後、私の興味ある研究テーマを発表した日本の学生と交流、意見交換を行いました。これまで関連文献を読んで研究し、国家人権委員会の推進や反対についての日本の状況は知っていましたが、実際に研究している日本人と話しをし、彼らの考えを一層深く理解することができました。今後も連絡を取り続けていけたらと思います。立命館大学での発表では、私は発表しませんでした

が、マレーシアの出稼ぎ労働者の問題を研究している博士課程の学生と台湾の政策及び状況、他の東南アジア地域の状況について討論し、多くの新しい見方を知りました。

4. 京都

立命館大学国際平和ミュージアムはとても有意義な場所でした。1980年代にヨーロッパ各国は第二次世界大戦への反省から、有名なスペインのゲルニカ平和博物館やドイツのベルリン・ユダヤ博物館など、数多くの戦争資料を保管していると聞いたことがあります。特にベルリン・ユダヤ博物館は第二次世界大戦時のあらゆる文献を保存すると共に公開しており、後世の学者の研究の用に供するだけでなく、一般市民も自由に閲覧することができます。

立命館大学の国際平和ミュージアムは戦争当時の日本の状況を記録しているだけでなく、戦争後期における加害者から被害者への転換、未来の人類が如何に平和を促進していくべきかについて豊富な内容を展示しています。

特に台湾人にとっては、第二次世界大戦中の日本と台湾の植民地関係により、日本の当時の行為についてより多方面からの観察を行うことができました。また、このような資料を公開して後世に評価・判断させることが、過ちを汲み取り前に進む方法であると思います。

台湾では二二八事件の発生から50年が経過した今日においても、台湾政府は依然として当時の多くのファイルを機密文献として非公開にしています。賠償問題や謝罪の他、当事者またはその家族が望んでいるのは「真実」を知ることです。ドイツの博物館の例では、当時の加害者に対して実施に処罰を行っているわけではないものの、主に当時の資料を公開することにより、歴史を思い出し、変えることができるのです。南アフリカの「真実和解委員会」も同様の理念に基づくものであり、

審議の目的は当時の「戦犯」を処罰することではなく、被告がすべての事実を裁判所で述べれば刑事責任を免れることもあります。

日本では現在もなお一部の戦後賠償の問題が継続していますが、過去の史料を博物館で一般大衆に見せることは台湾も検討すべきことだと思います。これも現在多くの団体が「移行期の正義 (Transitional Justice)」を引き続き推進している理由です。

京都は古い歴史と文化を持った古都で、ほとんどすべての有名な観光地は古い建築物で、いずれも歴史的意義に富んでいます。中でも金閣寺は必ず訪れなければならない観光地で、その日は日本の修学旅行生だけでなく、あちこちで外国からの観光客の姿を目にしました。通訳の徳山さんが私達に金閣寺の建物の特徴、歴史を説明してくれました。観光の時間は短かったものの、京都の文化の息吹を本当に感じる事ができました。

京都での自由行動では、私は市内の公共バスを交通手段として選びました。京都市は縦横に区画が分かれています、外国人にとって公共バスの路線図はとても親切かつ便利なものでした。特に公共バスでは一日乗車券が販売されていたので、一日に何度も市内の公共バスに乗ることができました。これは観光を促進する上で非常にプラスの影響をもたらすと思いました。

京都市の公共バスに対する私の第一印象は、停車位置が非常に正確であるということでした。京都の歩道の脇には観賞用の植物が植えられていますが、バスの乗客が乗り降りする空間も確保されていました。京都の公共バスの運転手が正確な位置に停車することができることは台湾とはまったく異なる点です。もちろん、台湾と日本の道路規格も異なっていますが、現在台湾で同じことをするのは難しいです。しかし、これは学ぶことができる点だと思います。

また、公共バスの中には耳の不自由な人のため



に筆談器が用意されていました。台湾も近年バリアフリーの空間作りを推し進めており、未だ十分に整備されていませんが、手足の不自由な障害者の自由な行動は以前よりも便利になっていますが、他の障害者に対するサービスは未だ細かい計画がなされていません。京都市内の公共バスはノンステップバスを使用している他、耳の不自由な人のために筆談器も備えており、台湾と比べると、身体の不自由な人に対してより広範なサービスを提供しています。前者の公共バス計画については、すぐに実現できないかもしれませんが、後者については、台湾もすぐに参考にすることができると思います。

京都の最後の一日は、座禅と和服を体験しました。座禅の時はとても寒かったですが、わずか15分間何も考えずに外の音に耳を澄ませていたら、心を落ち着かせる効果は抜群でした。精進料理もとても特色があり、私達が普段自分で日本に旅行に来たならば、考え付かない日程で、特別な感じがしました。清水寺での和服の体験は日程の中でも最も楽しみにしていた活動の一つです。みんな一緒に和服を着て、未だに紅葉が溢れる清水寺を散策し、特別な気分になりました。

大阪での時間は、厳密に言えばわずか45分しかなく、大阪人の生活を体験することはできませんでした。しかし、商店街は東京と比べ、店長が豪快で、商品も安かったです。最後に迷子になってしまった仲間がいて、緊張が走りましたが、結局何事もなく無事で良かったです。

最後の晩は関西空港に宿泊しました。夜、他の人と一緒に24時間動いている飛行場を見学したことはとても珍しい経験でした。

最後に、引率して下さったK先生に感謝の意を表したいと思います。ずっと私達の面倒を見てくださり、レポートや研究方法も熱心に指導して下さり、大変ためになりました。

全体の日程を手配し、私達の生活の面倒を見て下さったAさん、Nさんも私達の研究に大変関心を持って下さり、研究に役立つ活動であれば可能な限り許可していただき、とても感謝致します。また最も苦勞された通訳のT₁さんは、私達のために通訳をすると同時にガイドの仕事もして下さり、私達は一層日本を理解することができました。その他、バスの運転手やバスガイド



さん、群馬県観光国際協会のS部長など、私達に多くの日本の文化を学ばせてくださいました。以上の方々のお蔭で、私達が訪問日程を円満に終えることができたことに感謝致します。

今回同じグループだった陳鼎伊さん、王軍凱さん、王藍輝さん、曾鈺君さんとは訪日期间中常に一緒に行動し、彼らからも色々なことを学び、楽しく過ごすことができました。みなさん、ありがとうございました。